

神村学園での HIV 予防・啓発講演会より

～ 高校生の皆さんの感想ダイジェスト！～



2月14日にRinかごしまの予防啓発活動として高校生対象の講演会を、前年の種子島南高校に引き続いて実施しました。今回は神村学園3年生315名が対象でした。伊集院保健センターの下原保健師さんと共同で、エイズの予防啓発についてお話ししました。

講話後のアンケート結果は、まとめると以下のようでした。

①内容がよく理解できた。75% ②HIV予防への関心が増えた。67% ③今後の自分の役に立ちますか？88%

その中から、いくつかの感想文を紹介します。

(Aさん)：詳しくわかりやすく話をしてくださって、新しい知識も増えて、HIVに対してとても興味・関心がわきました。初めて知ることたくさんあり、驚くことも多くありました。今回の講座をしっかりと忘れずに、これからの人生に生かしていこうと思います。HIVにたいして私は、差別してしまう部分があったのですが、今回の話を聞いて、HIVは怖いものではないのだと気づきました。

(Bさん)：葉子先生の人柄と考え方で私の性同一性障害などの人たちへの見方が変わりました。差別をしない先生の人柄がとても素敵だと思ったし、将来看護師になる私もそんな人になりたいと思いました。

(Cさん)：心に強く残っているのは性の多様性です。私は心と体の性が違っている人がいても全然かまわないと思います。HIVに関しても保健所で無料検査ができると知り、もし疑いがあれば行こうと思いました。HIVを治す薬が早く作られればいいなと思いました。しかし、薬に頼るだけではなく自分の身は自分で守れるように予防をしっかりとしなければ自分自身にかえってくるということがわかりました。

世界にはいろいろな人がいますが、偏見や差別など少しでもなくしていける日本にしていくために、まずは自分自身がいろいろな人を理解し、関わっていけたらと思います。

(Dさん)：エイズは自分には全く関係のないものだと思っていたけれど、すごく、身近なものだと今日の講座で思いました。さまざまな性についての話も実際に人を使つての説明をしてくださったので、わかりやすかったです。心と体が一致せず生まれてくるということに驚きました。その人が一番悩んでいるはずなのに周囲の人が変な目で見ると、余計に悩みが増えるのだということがわかりました。

いろんな形の恋があつて、いいと思うし「好きになった人が好きな人」という考え方はとてもいいと思いました。

皆さん、最後まで熱心に聞いてくださいました。今後はもっとわかりやすく親しみのある講演会を目指したいと思います。(今村葉子)

ぶれいす東京研修会参加記 (2月8・9日)

「仲間との出会い」

私自身陽性者であり、陽性者支援活動の両面から参加させていただきました。

現在「Rinかごしま」で陽性者の支援活動、啓発活動を行っておりますが、陽性者、支援者の立場を改めて理解することと、活動の難しさを感じました。

ミドルとU40の陽性者ミーティングに参加しましたが、とても落ち着ける場所でした。同じ陽性者仲間であること、そしてセクシュアリティを隠すこともなく前向きな話、また現在抱えている心配事や不安、情報の交換など。陽性者同士であると言う前提が安心して話せる場となるのでしょうか。ミドルとU40の悩み、抱える問題の違いは有りましたが、HIV/AIDSを受け止め、今後どのように付き合っていくのかはみな同じ。確かに答えは出ないかもしれないし、一人ひとり抱える問題は違うのかもしれませんが、ただ安心できる場所であることには違いない、やはりピアミーティングの必要性和重要性を感じました。

それとファシリテーターによるスムーズな進行、とても重要な役割であり、ピアだからこそみな安心して集えるのだと感じました。地方と東京では、支援活動やグループミーティングなど、出来る事の違いはありますが、いずれにしても陽性者支援には変わらない、

地方で出来る陽性者支援の在り方を考え、新たな活動して行きたいと思いました。(Aさん)

Rin かごしまと出会った1年、そして、これからの目標

「正々堂々と生きていきたい」そう思い、HIVに感染していることをあえてオープンに再就職活動をして、沢山悩み苦しんだ2013年春。無事に就職が決まり、働き続けて1年を迎え、2014年春を迎えることが出来ました。理事長である今村先生と出会ったのもちょうど1年前です。

私は、Rin かごしまの活動に携わっていく中で「自分にしか伝えることの出来ないことを誰かに伝えたい」と言う気持ちが強くなりました。具体的に言うと、HIVに感染していることをオープンにして働こうと決意するまでの気持ちの移り変わりや、就職・採用に至るまでの経緯を同じ当事者の方々に伝えていきたい。次に、雇い主・就職をサポートして下さる方々にも、そう言ったことを含めながら、更にプラスして、私がこの1年間働いてきた中で経験した苦労や、必要なサポートなどを伝えたくて一緒に考えて頂きたい。今現在進行形のリアルな体験が、一番伝わり易いと私は考えています。しかしそれは、声にして伝えなければ、伝わらないのです。今年度は、構えるだけではなく自ら発信していきたい。それが今の私の目標です。伝えたいことは沢山あります。諦めずに、めげずに、声を大に、胸を張って、正々堂々と発信していきますので、応援をよろしくお願いします。(Bさん)

ふと気になった本の紹介・「陽性男子、酒と本とインコの日々」

某月某日 なんとなく、日記を書いてみようかと思いつく。陽性で、ゲイで、鬱持ちの僕ですが、特になんてことのない、普通の人間なんですよって、まあ、あんまり普通には「酒と本とインコ」の日記書くって人が居ないことは、わかってます。わかってますよ。

某月某日 日曜の朝は、ドキドキわくわくの朝。なんでって、新聞に書評が載るから！ 毎週日曜、社説の後あたり、スポーツ欄の前あたりに、素敵な本がところ狭しと並ぶと思うと、ほんとにハッピー！

インコを肩に止まらせて、朝刊をめくる。幸せな時間です。



僕が愛読しているのは朝日新聞と南日本新聞。その中の白眉は、朝日の、それも内澤旬子さんの評。どういうわけか、内澤さんの評はぐぐっと、ぐぐぐいっと、心にキマす。

2013年9月15日。内澤さんの評では「日本の「ゲイ」とエイズ」という、新ヶ江章友さんの本が紹介されています。新ヶ江さんが筑波大学の院で博士号を取るために書いた学位請求論文が元になっているのですが、いや、これが単なる論文ではないのです。僕ら、ゲイとしては、序章の中に、いきなりこんな言葉が出てきてびっくりします。

“現代日本社会に生きる男性同性愛者が、生きていくうえで何らかの指針になるような視点を提供することこそが、本書のまず第一の目的である。”

「生きていく上での指針になるような視点」

そんなこと、なんで新ヶ江さんは考えたんだろう。とても不思議です。新ヶ江さんはヘテロなので、ゲイが、ゲイとして、ゲイのための視点を、作る、というのではないです。かといって、単なるおせっかいでもないのです。

2008年から11年まで、エイズ予防財団でHIV/AIDS予防活動に関わってきた経験で、日本のゲイの社会は自然と成立したものではない、と、新ヶ江さんは言い切ります。

ここらへんが読みどころでも有りますので、気になったら後は図書館で借りて読んでみてください。(税抜きで4000円もする本なので、図書館で。鹿児島市立図書館にはあるみたいです)

某月某日 いい天気なので、インコ友達の岩男さんと、ハムチーズちゃんの三人で長崎鼻に、インコショーを見に行く。しょうもないけど、楽しいショーに拍手喝采！(Cさん)

Rin の活動に参加し始めて！

陽性者として、いろいろな立場があること、また様々な職業に就いていること、そして悩みもそれぞれ異なることがわかり、同じ病でもこんなにあるのかと驚いています。たしかに心強いものもあります。支援して下さる方々には、頭が下がります。いろいろな角度からのサポートしていただき、陽性者同士より一段と心強いです。Rinの活動に参加できない方にも、是非必要とされるNPOであってほしいと願っています。(Eさん)

(編集後記)

- ・今日はNPOとして認可されて初めての総会。実のある総会に是非したいです。
- ・活動の拠点となる新事務所が、会員の方のご厚意で確保されました。とても嬉しいのですが、維持費は大変！会員拡大・寄付金等募集など、皆さんの知恵を貸して下さい。(編集責任・H)